

令和4年度授業改善プラン

1. 全体計画

中野区立明和中学校

学校教育目標
人権尊重の精神を基盤に、レジリエンスをはぐぐみ、 21世紀をよりよく生き抜く力を身に付けるために ○学び合う ○認め合う ○高め合う ○支え合う

令和4年度学校経営方針（学力向上に関わる要点）
・全教員が、教師主導の授業から学習者主体の学びを転換することの重要性を再認識し、ニューノーマルの学習のモデルの実現を目指して学校全体で授業改善を行う。 ・各種学力調査や体力テスト、意識調査結果を分析し、生徒の実態や特性を踏まえた授業改善を組織に行う。

各教科の指導の重点	指導の重点（本校の捉える「確かな学力」）	総合的な学習の時間の指導の重点
・一人1台端末を日常的かつ効果的に活用することを通した「個別最適な学び」と多様な他者と協働しながら学ぶ「協働的な学び」を一体的に充実させることで、「主体的・対話的で、深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。 ・「社会に開かれた教育課程」の実現を意識し、各教科等において、多様な人々をゲストティーチャーとして招くことで、学習の深化を図るとともに、思考力・判断力・表現力を高める。 ・授業中、学び合う場を設けることで様々な立場や異なる考えがあることに気付かせ、自分の考えを広めたり、深めたりできるようにする。	・各種学力調査等の結果を踏まえた授業改善プランを作成し、全教員で課題と改善策を共有することで、教科間の垣根を越えて基礎・基本の確実な定着を図る。 ・全教科を通じて、根拠を踏まえて自分の考えを的確に表現したり、他者の意見を正確に理解して合意形成を図ったりするなどの言語活動を充実させる。また「主体的・対話的で深い学び」の視点から学習過程を改善し、思考力や表現力の育成を図る。 ・一人1台端末や電子黒板を活用するなどして学習過程上に「個→グループ→全体→個」の展開を確立する。 ・年間指導計画及び評価計画を随時見直し、指導方法の工夫改善を図るとともに、学習指導要領に基づく指導と評価の一体化について生徒や保護者に明確に示す。	・教科等横断的な視点を基盤に総合的な学習の時間を組み立てることにより、課題を発見する力、情報収集力や選択力、コミュニケーション能力、よりよい生き方を模索し自らの進路を選択する力等の育成に努める。
		特別活動の指導の重点
		・一人ひとりが、自分の役割と責任を果たすとともに、互いに協力し合い、よりよい集団づくりに寄与しようとする態度を育てる。 ・地域社会の一員としての自覚をもたせ、地域に貢献しようとする意識と態度を育てる。
		道徳教育の指導の重点
		・人権教育を軸にして、自他の生命を尊重し、多様性を理解し、互いの違いを認め合える学校風土を醸成する。

キャリア教育の重点	生活指導の重点
・「キャリアパスポート」を活用しながら、生徒が自らの能力・適性を見出し、自分の生き方を考え、主体的に自己の進路を選択する能力や態度を育成する。 ・社会とのつながりをもたせるために、外部人材を活用した体験活動を充実させ、望ましい職業観や勤労観を形成する。	・互いの人権を尊重する態度を養うとともに、命を大切にす る教育を全ての教育活動の根幹におき、健康で安全な生活を送れるように図る。 ・組織的な相談機能及び対応力を高め、いじめの未然防止、早期発見、早期解決、早期解消に努める。

授業改善の視点					
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	評価の工夫	校内研究・研修の工夫	小学校との連携	家庭・地域との連携
・各種学力調査や体力テスト、意識調査の結果を学習・進路指導部が中心となって分析の上、各教科等において生徒の実態や特性を踏まえた授業を構築する。 ・ICTを効果的に活用することで、学習に対する興味・関心を高めさせるとともに、理解を深化させる。	・数学科及び英語科における少人数・習熟度別指導を通して、個に応じた指導を充実し、生徒の学習意欲を高めるとともに、そのもてる力を最大限に引き出すように努める。 ・全教員が交代で道徳の授業を行い、「考え、議論する道徳」の充実を図ることによって、様々な視点から生徒のよさを見取るよう努める。	・指導と評価の一体化を意識し、目標に準拠した評価を通してきめ細かな学習指導の充実と学習内容の確実な定着を実現する。 ・観点別評価及び評価から評定の付け方に係る共通理解を深め、その妥当性、信頼性を担保する。 ・生徒・保護者に対し、評価・評定について分かりやすく丁寧に説明する。	・「人権尊重教育推進校」として、研究推進委員会を中心に、全教職員が人権教育について学び、17の人権課題に係る理解を深める。その際フィールドワークを取り入れた実践的な研修も実施する。 ・人権教育を軸としたカリキュラム・マネジメントを意識し、全教科等で教科横断的な人権教育を実施する。	国・文法に係る基礎・基本を定着させる。 ・互いの立場や意図を明確にして話し合い、考えをまとめる活動を充実する。 ・目的や意図に応じ条件を踏まえて書く活動を充実する。 図・基礎的な計算の定着を図る。 ・起こりうる場合を順序よく整理するための図や表などの用い方を知り、確率を求める方法を定着させる。	・学校だよりやホームページ等における積極的な情報発信を通して、本校の教育課程の趣旨や内容、学力向上に向けた取組等について保護者や地域と共有を図り、協働を促すことで「地域に開かれた教育課程」の実現を目指す。

学力向上に向けた任期付短時間勤務教員の活用
・数学科の少人数・習熟度別指導にT2として入ることで、個々のつまづきを発見し、授業内の個別指導を通して課題の克服を図る。 ・1組の理科の授業の主担当として、効果的な実験・観察を取り入れた授業を構築することで、理科に対する興味・関心を高める。 ・毎日、放課後に実施している学習教室「まなびや」において個別の指導を行うとともに、その学習状況を保護者にフィードバックする。

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
1年	区学力調査の結果の分析	具体的な授業改善案（手だて） ・タブレットで語句の意味や活用例を調べ、その語句を使った短文を作るなど、話や文章の中で使う機会を設ける。 ・デジタル教科書等を活用し、情報の整理の方法や資料の引用の仕方等、根拠を明確にして自分の考えを伝えるための文章の型について再確認させる。 ・意見文等の文章を書かせる際には、初めから長文に取り組ませるのではなく、まずは字数の少ない簡易版で練習させるようにする。 ・書こうとする文章のイメージを持たせるために、事前に、具体的な見本・模範となるような生徒作品等を電子黒板等で共有する機会を増やす。
	授業における課題	
	・自分の考えが伝わるように、根拠を明確にしながら、工夫して書く活動に対し、苦手意識をもつ生徒が多い。 ・語彙が乏しく、語句の意味や使い方に対する認識が浅い生徒が見られる。	
2年	区学力調査の結果の分析	・既習の漢字を平仮名で書いている場合には、正しい漢字を示すとともに、普段から漢字を使って文章を書くよう指導する。また、定期的に小テストを実施し、新出漢字の定着を図る。読みについては、タブレットを使用し、クイズ形式の問題を取り入れていく。 ・文章の構成や論理の展開を確認して、読み進めたり、教科書に線を引きながら読んだり等、描写を基に内容を捉える授業を展開していく。 ・タブレット等を活用し、集めた材料を観点に沿って比較、分類、関係付けするなどして整理させながら考えをまとめさせる。
	授業における課題	
	・漢字の読み書きが定着していない。 ・文章の構成や展開、表現の仕方を分析的に捉え、書き手の目的や意図を考えたり、その効果について考えることや、描写を基に内容を捉えることに課題が見られる。 ・情報を整理し、要点を明確にした文章を構成する力が未定着である。	
3年	区学力調査の結果の分析	・「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、小学校とも連携し、繰り返し取り上げることで、知識・技能の定着を図る。また、タブレットを活用し、クイズ形式の問題演習に取り組ませることで、生徒の学習意欲を高めることができる。と考える。 ・複数の文章を比較して読み、理解したことや考えたことを文章にまとめる活動を多く取り入れる。その際、資料を適切に引用し、根拠を明確にして、自分の考えを記述するよう指導する。 ・互いのスピーチを聞き合っ、質問や助言をする場面を設定するなど自分が聞き取って理解したことや考えたことを確かめたり、共有したりするなどの学習活動を行う。
	授業における課題	
	・古典に苦手意識を感じる生徒が一定数おり、文語のきまりに定着していない事項が見られる。 ・複数の情報を読み比べ、考えたことを、根拠を明確にしながら表現することに課題が見られる。 ・論理の展開などに注意し、情報を取捨選択しながら聞く力が不足している。	

現状分析を受けて、3年間を通して国語科で身に付けさせたい力とその方策

- 目的や意図に応じて書く力
 - ・資料を適切に引用する等、根拠を明確にして自分の考えを書く力
 - ・指定された条件に従って書く力
 - ・日常生活や社会生活に即した題材を設定し、目的意識や相手意識、場面意識等を明確にもたせて記述させる。その際、文章の構成や論理の展開、字数等の条件に従って書かせるようにする。
 - ・書くことに必要な情報は、タブレット等を活用して収集させるとともに、集めた材料を、必要な観点に沿って、比較、分類、関係付けするなどして整理させる。
- 話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを広げたり、深めたりする力
 - ・話し手の考えを聞いて自分の考えをまとめる際には、情報同士の結び付きに注意しながら、話の要点を捉えたり意見に対する根拠の適切さを判断したりして聞くようにさせる。

(2) 社会科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	・社会科に対する興味・関心をもっている生徒が多い。一方で、暗記科目という印象をもっている生徒もいる。 ・自分のもつ知識を多面的・多角的に捉え直すとともに、自分の考えを根拠を踏まえて分かりやすく表現したりすることに課題が見られる。	・授業の導入時に、生徒にとって身近な事象を取り上げるとともに、ICT機器を活用して多様な資料を提示し、新たな視点に気付かせることで、社会的事象を多面的・多角的に捉え、さらに深く探究しようとする姿勢を促す。 ・ワークシートやタブレットを活用して資料やグラフを的確に読み取らせるとともに、見出した課題について自分の言葉で分かりやすく説明する学習活動を積極的に取り入れる。
2年	・知識を学ぶことにとどまらず、社会的な見方・考え方を養うことが重要である。例えば、「地図」「絵」等の資料を活用して、それらの事象を関連づけ、その関係性を説明するなど、考え、発信する授業を構築する必要がある。 ・知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力を育成する手立てや工夫が必要である。	・小テストを定期的に施し知識及び技能の定着を図るとともに、「単元を貫く問い」を立て、なぜそうなのか、自らの問題として主体的に考えさせる。また、根拠を明確にして自分の考えや意見を書くことを重視し、思考力や表現力を養う。 ・引き続き、多様なゲストティーチャーを招き、専門的な話を聞かせることで、生徒の興味を引き出すとともに、自分のこととして課題をとらえさせるなど、「生きた社会科」を実現する。 ・「コラボノート」などのアプリケーションを活用し、現実に関わっている問題について考えさせ、自分の意見をもたせる。
3年	・知識・技能を活用した能力は定着しつつある。しかし、知識・技能を踏まえて、それぞれの社会的事象を関連付けたり、比較したり、考察したりする力を身に付けさせることが必要である。	・「単元を貫く問い」を設定し、他者と課題について話し合ったり、共通の体験をしたりすることで、例えば、「なぜ(歴史上の人物が)そのような行動を取ったのか」などを推察する活動を取り入れる。 ・複数の資料を比較し、自分の考えを伝え合う学習活動を意図的・計画的に取り入れる。

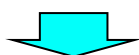
現状分析を受けて、3年間を通して社会科で身に付けさせたい力とその方策

- 社会的な見方・考え方を働かせ、多面的・多角的に考察し、自分の考えを表現する力
 - ・対話的な活動やICT機器を活用した学習を通して、多様な人々の考えや資料を適切に読み取り、自分の考えを広げ、深めさせる。そのために、探究につながるような学習課題を設け、学習の見通しをもたせたり、振り返らせたりしながら、学んだことを価値付けるとともに、社会とどのように結び付いているかについて自分の言葉で表現する活動を取り入れる。こうした活動を積み重ねることで、考察と表現のサイクルを回し、思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。

(3) 数学科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
1年	区学力調査の結果の分析	具体的な授業改善案（手だて）
	・基礎・活用正答率では、全て目標値を上回っており、特に「活用」においては、目標値を上回っている。 ・領域別正答率では、全て目標値を上回っており、特に「図形」においては、目標値を上回っている。 ・観点別正答率では、全て目標値を上回っており、特に「主体的に学習に取り組む態度」においては、目標値を上回っている。	
	授業における課題	
2年	区学力調査の結果の分析	・基礎的な計算力の定着については、計算のきまりをよく理解させるとともに、繰り返しの学習を通して達成感を味わわせる。 ・少人数・習熟度別指導を通して、個々の生徒のつまづきの原因を探り、個別に対応するとともに、放課後の学習教室「まなびや」での学習につなげるようにする。 ・発展的な内容を扱う際には、ICT 機器を活用して分かりやすく説明するとともに、それぞれの考え方を発表させることを通して、解答の手順をイメージさせたり、よりよい問題解決の方法を探らせたりしていく。
	授業における課題	
	・小数や分数の計算など、小学校で学習した内容の定着が十分ではない生徒がいるという課題がある。 ・複雑な計算や「数学的な表現を用いた理由の説明」などの発展的な内容について粘り強く取り組むことを苦手とする傾向がある。	
3年	区学力調査の結果の分析	・数学で使用する用語の意味を的確に理解させるとともに、それを用いて問題解決ができるようにする。 ・ICT 機器を活用して、図やグラフを提示することで、グラフの特徴などの基礎的な内容の理解を深めさせる。 ・「数と式」「関数」「空間図形」においては、数学的な表現を用いて、論理的に説明したり、伝え合ったりする活動を積極的に授業に取り入れ、分かりやすく説明できるようにする。
	授業における課題	
	・基礎・活用正答率では、全て目標値を上回っており、特に「活用」においては、目標値を上回っている。 ・領域別正答率も全ての分野において、目標値を上回っているが、データの活用においては、目標値との差が少ない。 ・観点別正答率でも目標値を全て上回っている。 ・平行四辺形になるための条件についての理解や箱ひげ図の読み取りが不十分であることが課題である。	
3年	区学力調査の結果の分析	・計算問題に多く取り組ませ、基礎・基本の一層の定着を図る。 ・数学的な表現を用いて、論理的に説明し、伝え合う活動を積極的に授業に取り入れ、推論の過程を簡潔・明瞭に表現できるように指導の充実を図る。 ・「データの活用」では、既習事項の確認を十分に扱った上で、必要なデータを収集し、処理し、データの傾向を捉え説明するという一連の活動を体験させ、考察できるような授業を組み立てる。
	授業における課題	
	・正の数・負の数における絶対値などの用語への理解や、比例・反比例におけるグラフの特徴など、基礎的な内容の理解が不十分である ・問題文から表やグラフの特徴を読み取ることや、空間図形の位置関係について説明をすることに課題がある。	

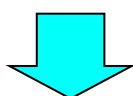


現状分析を受けて、3年間を通して数学科で身に付けさせたい力とその方策
○「数と式」：基礎的な計算力 →・反復学習をさせることによって、確実な計算力を身に付ける。
○「データの活用」：データの傾向を読み取り、批判的に考察し、問題解決に取り組む力 →・日常生活や社会における問題を取り上げ、それを解決するために必要なデータを収集し、処理し、データの傾向を捉え、説明するという一連の活動を体験させることによって、多面的に吟味したり、批判的に考察できるようにさせる。
習熟度別少人数指導の充実に向けて
・単元テストなどを活用しながら、効果的なクラスを編成する。 ・基礎クラスは基礎的な計算力の定着を重点に授業を行うとともに、発展クラスについては、論理的に説明し、伝え合う活動を積極的に授業に取り入れ、推論の過程を簡潔・明瞭に表現する力を身に付けさせる。

(4) 理科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	・全体的に理科に対する関心が高い。 ・自分の考えや予想を記述したり、既習事項を振り返ってまとめたりすることに課題が見られる。科学的な見方、考え方を広げるとともに、表現力を高める必要がある。	・結果を予想したり、考えをまとめたりする学習活動を多く取り入れるとともに、課題を解決するために、適切な探究の方法について、見通しをもたせる学習場面を増やす。 ・ICT機器を活用し、自分の意見を発表したり、他者の意見を知る機会を増やす。また、電子黒板等を活用し、観察・実験についてのまとめ方の例を示す。
2年	・自然事象に関心をもたない生徒が見られる。 ・自分の考えや実際に起きている事象について、学習した知識を活用して記述する力が十分でない。 ・分子のモデルで表した図を基に、化学変化を化学反応式で表すことが身に付いていない生徒がいる。 ・状態変化に関する知識の概念的理解に課題が見られる。 ・観察や実験などの実践的活動が不足しているため、基本的な技能が十分に定着していない。	・自然事象が身の周りのどのようなことに関わっているかを結びつけられるような課題を与え、学習への関心をもたせる。 ・自分の考えや自然事象を的確に書き表すために、必要な語句や知識を定着させ、基礎的・基本的な事項や用語を確認する時間を設け、その語句を使って書き表すよう促す。その際に「5W1H」を意識して表現させる。さらに、グループワークなどにより、聞き手(読み手)を意識し伝わるように表現させる。 ・ICT機器を活用し、原子や分子のモデルを用いて可視化することで、化学変化を化学反応式で表す活動を繰り返し行う。 ・状態変化に関する知識・技能と身近な現象を関連付けて探究する学習場面を繰り返し設定する。 ・新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮し、可能な限り、観察や実験を行い基本的な技能を身に付けさせる。また観察や実験の前に、動画や演示を見せたり、ICT機器を活用し、調べさせたりする。
3年	・日常生活と自然事象との関わりについて、関心をもてない生徒がいる。また、異なる分野や単元間のつながりが認識できない生徒が見られる。そのため、全ての生活が自然事象に根拠でつながっていることを意識させる必要がある。 ・「令和4年度 全国学力・学習状況調査」の結果では、思考・判断・表現において、全国・都平均は超えているが、知識・理解は下回った。自分の考えを的確に書き表すために必要な用語の意味や知識の定着を促す必要がある。	・自然事象が身の回りのどのようなことと関わっているか、結びつけられるような課題を与え、関心をもたせる。 ・マクロ的・ミクロ的に思考するために体感しづらい場合は、インターネットやデジタル教科書を活用して疑似経験をさせる機会を設ける。 ・基礎的・基本的事項を確認する時間を設けたり、キーワードを提示して考えを書き表す機会を設けたりする。 ・考察の妥当性を高めるため、行った実験の改善点を見出し、実験計画を再検討する学習場面を設定する。



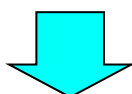
現状分析を受けて、3年間を通して理科で身に付けさせたい力とその方策

- 日常の生活で見られる自然に関する様々な事象に興味や関心をもって科学的に捉え、それらについて自ら説明できる力
 → ・観察や実験、話し合い活動など、生徒の自主的な活動を取り入れるとともに、視聴覚教材やICT機器の活用を通して日常生活と授業の内容の関連に気づかせ、興味や関心を高める。
 ・小学校や高等学校との内容のつながりを生徒に意識させることにより、理科に対する興味や関心を喚起し、学ぼうとする意欲を高める。

(5) 音楽科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン	
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）	
1年	・音楽活動への関心は高く、特に、歌唱や鑑賞に意欲的に取り組んでいる。今後は、創意工夫して、よりよい音楽表現を追求しようとする態度を育成することが求められる。 ・表現分野においては、楽譜や楽曲に関する資料を利用し、音楽を形づくっている要素とその働きを意識して、豊かに表現する力が身に付いていない面が見られる。		・録音した音源や録画した映像を活用し、自分たちの音楽表現を客観的に聴くことで、そのよさや課題を知り、改善に向けて互いに伝え合うことで、他者と協働しながら技能の向上を目指す。 ・同じ曲について、複数の演奏者の表現を聴き比べてみることで様々な表現方法があることを知るとともに、自分なりに評価して聴くことで自身の表現活動に生かす。 ・曲にふさわしい表現方法を具体的に例示し、実際に取り組ませることで、創意工夫ある表現活動に気付かせる。
2年	・音楽活動への関心は高く意欲的に取り組む。しかし、全体的場での発言をためらったり、意見を表出することを躊躇したりする生徒もいる。 ・模範の演奏を聴いたり、楽譜を読み取ったりする活動では、細かな部分に気付くことができるようになってきたものの、実際の鑑賞活動や歌唱表現にはまだ結び付かない場面がある。		・ICT機器を活用して意見を共有させたり、少人数のグループ活動において意見交流を行わせたりする。 ・表現活動に関して、考えたり書いたりしたことを、実践してみる場面を授業内で増やすとともに、他者との協働を図ることで、表現技能の向上につなげる。
3年	・音楽活動への関心は高いが、表現の工夫に関する自分の考えを言語化することが苦手な生徒がいる。 ・楽譜を読み取ったり、演奏したりする技能に差が見られる。		・自分の考えを短い文章でまとめられるようなワークシートを作成したり、タブレットに入力して提出させたりすることで、自分の考えを言語化する力を伸ばす。 ・表現の工夫を考えさせる前に、具体的な表現方法を例示したり、表現活動の中で試行させたりする。



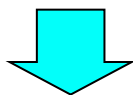
現状分析を受けて、3年間を通して音楽科で身に付けさせたい力とその方策

- 表現する楽しさが深い学びにつながるよう、「見方・考え方」を働かせて表現活動に主体的に取り組む力
 → ・表現活動の中で、自己評価・意見の共有・表現の工夫・判断等を繰り返し、音楽をつくりあげる喜びを体感させることで、音楽における学力の向上を図る。

(6) 美術科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン	
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）	
1年	・全体的に美術に対する創作意欲は高く、作品の完成度を追求する生徒が多い。 ・基礎的・基本的な知識・技能が定着していない生徒がいる。		・指導と評価の一体化を目指し、毎時間、本時の目標や学習の流れを掲示する。 ・ICTを有効に活用し、制作動画等を視覚的に流したり、参考となる作品を掲示したりすることで、創作意欲を促す。 ・繰り返し復習を行い、基礎的・基本的な知識や技法を学ばせることで、継続的な力を身に付けさせる。 ・机間指導で十分に観察し、自分の考えを具現化できるようにアドバイスを行う。
2年	・全体的に基礎的・基本的な知識・技能が定着している。制作に対する意欲が高く、完成度の高い作品を制作する生徒が多く見られる。 ・熱心に取り組んではいるものの、苦手意識のある生徒がいる。		・デザインのよさをさらに追求できるように効果的な描写の資料を提示したり、助言したりする。また、目標を明確にして、生徒の表現意欲を高めるよう指導する。 ・鑑賞の授業を通して美術の役割や機能を学ばせるなど、鑑賞の活動と表現の活動を両輪で行うことで、具体的な作品制作につなげられるようにする。 ・随時、作成途中段階での確認を行い、作品の完成に向けて計画的に進めていけるように促す。
3年	・全体的に基礎・基本的な知識・技能を身に付けており、より発展的な発想や技能を追求しようとする生徒が多くいる。 ・教師が助言することで、自分が表現したいイメージに気付き、より洗練された作品を作ることのできる生徒が多い。		・本時の目標や制作の仕方を掲示したり、制作動画などを流したりして、生徒の制作意欲をかき立てることを意識した指導を行っていく。 ・鑑賞の授業では、美術文化に対する見方や感じ方を深めさせる。また、発展的な学びとなるよう、資料等を活用し、作品制作のヒントにつなげるようにする。 ・机間指導を行い、一人ひとり丁寧に制作での声かけを行う。また、制作の意図を理解させることで、自分の表現方法を生み出すように促す。



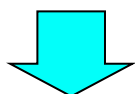
現状分析を受けて、3年間を通して美術科で身に付けさせたい力とその方策

- 表現や鑑賞などの幅広い活動を通して、生活や社会の中の美術文化や美術の役割・機能を学び、対象や事象を捉える造形的な視点や表現方法を工夫し、創造的に表すことができるようにする力
- 学習指導要領に沿った系統的な年間指導計画を踏まえ、表現の活動と鑑賞の活動を関連付けながら、計画的に指導を行う。
- 例えば、1年生の鑑賞の授業では、古代の人々の思いや文化を踏まえて作られた美術作品があることを学ばせた上で、表現の授業で、それに関連させた創作活動を行わせる。

(7) 保健体育科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
1年	・男子の体力レベルは、東京都平均と比較して、全体的に低い傾向がある。特に、持久走やハンドボール投げに課題が見られる。 ・女子の体力レベルは、東京都平均と比較して、全体的に低い傾向が見られる。特に、持久走やハンドボール投げに課題が見られる。	・体力を向上させるために、補強運動や5分間走を取り入れる。 ・球技の種目では、投運動を行うための技能や体力を向上させるために、ボール投げの運動を毎時間取り入れる。 ・自ら意欲的に運動に取り組むことができるよう、ICT機器を効果的に活用するなど、授業内容を工夫し、個々の体力レベルに応じた支援を行っていく。
2年	・男子の体力レベルは、東京都平均と比較して、体力合計点は上回っているが、ハンドボール投げに課題が見られる。 ・女子の体力レベルは、東京都平均と比較し、体力合計点は上回っているが、ハンドボール投げや長座体前屈に課題が見られる。	・体力を向上させるために、補強運動や5分間走を取り入れる。 ・球技の種目では、投運動を行うための技能や体力を向上させるために、ボール投げの運動を毎時間取り入れる。 ・自ら意欲的に運動に取り組むことができるよう、ICT機器を効果的に活用するなど、授業内容を工夫していく。
3年	・男子の体力レベルは、東京都平均と比較して、全体的に低い傾向がある。特に、持久走やハンドボール投げに課題が見られる。 ・女子の体力レベルは、東京都平均と比較して、全体的に低い傾向が見られる。特に、持久走やハンドボール投げに課題が見られる。	・体力を向上させるために、補強運動や5分間走を取り入れる。 ・球技の種目では、投運動を行うための技能や体力を向上させるために、ボール投げの運動を毎時間取り入れる。 ・自ら意欲的に運動に取り組むことができるよう、ICT機器を効果的に活用するなど、授業内容を工夫していく。



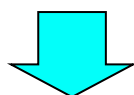
現状分析を受けて、3年間を通して保健体育科で身に付けさせたい力とその方策

- 運動を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにする資質や能力
 → ・十分な運動量を確保することで、全体的に体力の向上を図るとともに、運動の楽しさや喜びを味わわせ、運動に親しむ態度を身に付けさせる。
 ・仲間との話し合い活動や、ICT機器での映像分析を通して、自己の生活や運動から課題を発見し、知識を活用して解決する力を身に付けさせる。

(8) 技術・家庭科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン	
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）	
1年	・「衣服」に対する関心は薄い、製作については意欲的である。（家庭） ・ものづくりを行う際、長さを正確に測れない、材料をしっかり固定して作業をすることができない生徒がいる。（技術）		・製作をきっかけに衣服に対する関心を高めるとともに生活の自立に必要な基礎的な理解を深める。（家庭） ・作業工程表を活用し、作業の方法を動画で確認させたりするとともに、机間指導を通して個別に繰り返し指導する。（技術）
2年	・「食生活」に関する意識は高く、問いかけにも多くの意見が出る。（家庭） ・調べてまとめたことについて、全体の前で発表することが苦手な生徒がいる。（技術）		・タブレットで食品表示の写真を撮り、授業で活用するなど生徒の実生活に応じた授業を展開し、考えを深める。（家庭） ・収集した多くの情報を取捨選択し、精選した情報のみを用いて簡潔に表現できるよう指導する。また、スピーチやプレゼンテーション等を行う際には、聞き手の立場に立ち、分かりやすく説明できるよう指導する。（技術）
3年	・製作に関する自己の能力を的確に把握できず、高い目標を立ててしまい、思い描いたとおりの作品を完成させることができない生徒がいる。（家庭） ・ものづくりや情報処理に対し、苦手意識のある生徒もいる。（技術）		・毎時間、「実習計画表」に進度や改善策を記入させ、作業に取り組ませることで、生徒自身が完成のイメージをもちながら見通しをもって作業が行えるようにする。（家庭） ・一人ひとりの課題やつまずきに応じて個別指導を行うことで、「できる」体験を味わわせ、達成感を得られるようにする。週あたりの時間数が少なくなっているの、より1時間1時間を大切にさせる。（技術）



現状分析を受けて、3年間を通して技術・家庭科で身に付けさせたい力とその方策

- 課題に対する解決策を考える力や実践を、評価、改善する力、考えを表現する力（家庭）
→ ・「実習計画表」を活用し、見通しをもったり、計画を改善したりしながら、被服実習や調理実習、実験を行う。
- 技術に係る基本的な技能の習得と、主体的に課題の解決を図る力（技術）
→ ・ものづくりやプログラミング等を通して、できる喜びや達成感を得ると同時に、より高い技能を身に付けさせる。

(9) 外国語科

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
1年	授業における課題	具体的な授業改善案（手だて）
	・「聞くこと」「話すこと」については、概ね理解できているが、英単語の習得に課題があるため、「読むこと」と「書くこと」につまづきが見られる。	
2年	区学力調査の結果の分析	・音読指導を丁寧に行うとともに、宿題として、毎回、教科書の本文をノートに写させることで、英文を「書くこと」に慣れさせる。 ・「読むこと」に親しませるために、教科書本文の暗唱を行い、単元の終わりに授業内で発表させて確認している。
	・基礎・活用、どの領域においても、区平均を上回っている。問題別に見ると、「場面に応じて書く英作文」だけは目標値を下回っており、無回答も多い。一方、同じ英作文でも、「3文以上の英作文」については上回っている。	
	授業における課題	
3年	・語彙や文法の定着に課題が見られる。	・授業中に十分に練習した上で、音読やライティングなど、適時適切な宿題を出す。 ・定期的に、単語テスト、単元テスト等を実施し、語彙や文法など基礎的・基本的な事項の定着を図る。 ・日々の授業では、自分の意見を述べたり、読み取った内容を発表したり、条件に応じて書いたりする言語活動を十分に行う。 ・目的意識と場面意識、相手意識をもたせ、状況に応じた英語表現ができるよう、繰り返し練習する機会を設ける。 ・タブレットを活用することで、表現活動や音読練習を繰り返し行う。
	区学力調査の結果の分析	
	・校内平均正答率は、目標値より上回っている。	
	・「聞くこと」は、ほとんどの問題で上回っているが、「読むこと」については、区の平均正答率より下回っている。	・日々の授業で、長文読解に粘り強く取り組ませる。 ・各単元において、自己表現活動を行った後、英文を「書く」活動、それを生徒同士で「読む」活動を行うことで、「読む」力の向上を図る。 ・上記の活動を繰り返し行っていく中で、生徒が主体的に学習に取り組む態度を身につけられるよう、認め、励ます指導を行っていく。
	授業における課題	
	・分からない単語や文法があっても、長文を諦めずに読み進め、読解しようとする主体的な学習態度が身につけていない生徒が一定数見受けられる。	

現状分析を受けて、3年間を通して外国語科で身に付けさせたい力とその方策

- 自分の考えや意見について、理由や具体的な根拠を加えて説明する力
- 自分の考えや気持ちを相手に分かりやすく豊かな表現力
 - ・各単元の表現の目標を暗唱やRetellに留めず、自己表現活動にもつなげる。現在は、相手に伝えようとはしているものの、正しく伝えることができていない生徒が多いので、このような言語活動を繰り返し行っていく中で、「語形・語法」の理解を定着させる指導も行っていく。

少人数指導の充実（実施校）に向けて

- ・感染防止に留意しながら、ペア活動やグループワーク等を多く取り入れることで、生徒の言語活動の機会を充実させる。また、発話の様子を観察し、適切に助言することで、生徒の言語能力を高める。

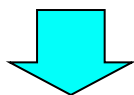
A L T の活用の工夫

- ・生徒が習得した知識・技能を生かし、自分の考えや体験、気持ちなどをALTとの会話の中で適切に表現できるように、実際にコミュニケーションを行う場面、状況を設定し、会話のやり取りを行わせる。また、ALTにフィードバックの補助を依頼することで、生徒が自分の考えを書く機会を一層増やしていく。

(10) 特別の教科 道徳

【中学校】

現状分析		授業改善プラン
授業における課題（生徒の実態・教師の指導上の課題）		具体的な授業改善案（手だて）
全学年を通して	・生徒が進んで自分の考えをもち、全体や友達の前で発表したり、交流したりしていこうとする授業の充実が求められる。	・地域人材、保護司、助産師、若年性認知症や犯罪被害者のご家族等のゲストティーチャーを積極的に招聘するとともに、生徒の体験活動の充実を図り、生徒が多様な人々と交流しながら、自分の考えや心情を深められるようにする。
	・物事や事象を多面的・多角的にとらえ、自分の考えや心情をより豊かにしていこうとする授業展開が求められる。	・書く活動を充実させ、生徒が自分の心情を見つめ表現し、自分の道徳的心情を実感できるようにする。
	・教師や学級の受容的共感的な姿勢により、生徒がより深く自分の内面を捉えられるようにすることが必要である。	・生徒が学び合い、認め合い、高め合い、支え合う機会を学習の中に設け、共感したり違いを認め合ったりしながら、互いに支え合っていこうとする心情を醸成し、一人ひとりの生徒が自分の居場所を確保し、安心して授業に臨めるようにする。
	・タブレットや電子黒板等の ICT 機器の積極的な活用により、生徒の教材理解を促進したり、互いの意見や考えの交流を活発化させたりすることが求められる。	・ICT 機器等を積極的に活用して、教材の理解の促進や生徒同士の考えや意見の交流を促し、多面的・多角的に物事を捉えられるようにする。



現状分析を受けて、3年間を通して特別の教科 道徳で身に付けさせたい力とその方策
・生徒同士の心のふれ合いやルールの大切さを実感することにより、生徒が望ましい生活習慣を身に付け、節度と調和のある生活をするとともに、自主的、自律的に行動できるようにする。
・多様な人々との交流を通して、様々な生き方や考え方に触れさせることで、生徒が自分を振り返り、自己肯定感や自己有用感を高められるようにする。また、同年代はもとより異年齢の方々との交流を充実させるなど、人とのかかわりを通して、生徒が思いやりの心をもって他者とかわろうとする力を高める。
・「キャリア・パスポート」の作成を通して、生徒が自分の目標を立て、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつようにする。
・職場体験や自然体験などの多様な体験活動や、社会の中の様々な立場や状況の中で生きている方々のお話に触れたりする体験から、多様な生命はかけがえのないものであると理解し、自他の生命を大事にしながら生きていこうとする心情を深める。
・地域のボランティアへの参加を促すことにより、生徒の社会貢献意識をはぐくみ、互いに互いに支え合って生きていこうとする道徳的実践力を高める。